shindaiwa

電子エンジン刈払機

かるーね R35F-2A R35F-2B

取扱説明書

●必ずお読みください。

新ダイワ工業株式会社

はじめに

このたびは新ダイワの刈払機をお買上げいただき、ありがとうございます。皆様がご満足いただけるよう、弊社が心をこめて製作した刈払機です。

お使いになる前には必ずこの説明書をよく読み、機械を正しく作動させ又間違ってケガなどをされないようにして作業を開始してください。

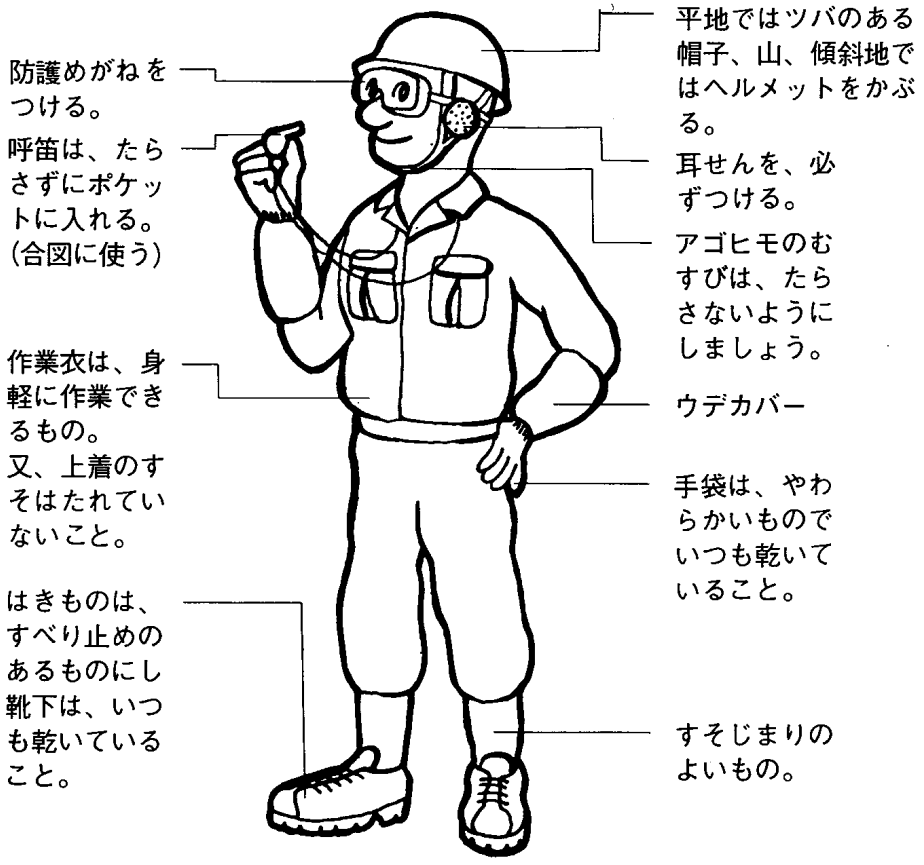
新ダイワ工業株式会社

目　次

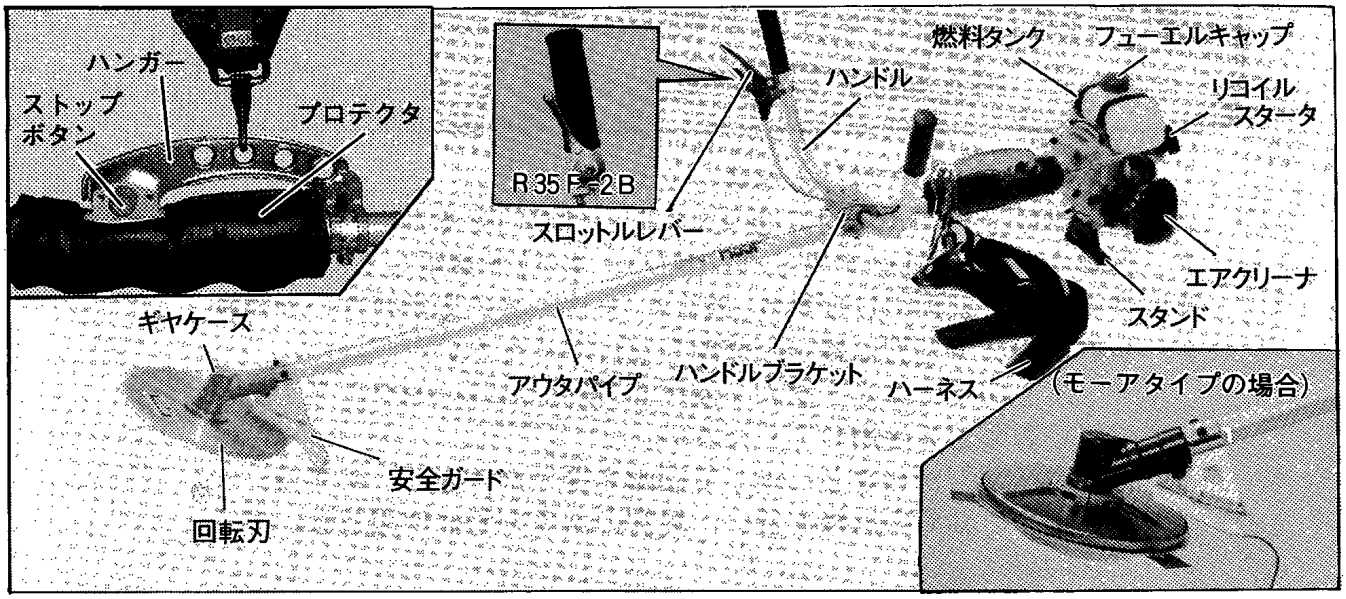
A．各部の名称…… 3
B．仕　様…… 3
C．組立ての手順…… 4
　C－1．エンジンの組付け…… 4
　C－2．ハンドルの取付け…… 4
　C－3．スロットルケーブルの取付け…… 5
　C－4．安全ガードの取付け…… 6
　C－5．回転刃の取付け…… 7
　C－6．R35F-2Bにモーアユニットを使用する場合 …… 7
D．エンジンの始動、停止、調整…… 9
　D－1．燃料の給油…… 9
　D－2．始動のしかた…… 9
　D－3．停止…… 11
　D－4．エンジンの調整…… 11
E．操作とその準備…… 12
　E－1．ハーネスの掛け方…… 12
　E－2．操作の方法…… 13
　E－3．スイベルロックの使用方法…… 15
F．手入れと調整…… 16
　F－1．日常の手入れ…… 16
　F－2．50時間毎の手入れ…… 16
G．長期保管…… 17
H．安全作業のおねがい…… 18
　H－1．服装…… 18
　H－2．暑熱、寒冷のとき…… 18
　H－3．火気厳禁…… 18
　H－4．作業前の点検…… 18
　H－5．作業中の注意…… 19
I．故障の診断と処置…… 20

危険防止のために下記のような作業注意事項を守ってください。

1．安全ガードは必ず付けて作業してください。
2．作業中は半径10m以内に他の人を近づけないでください。
3．作業中、移動中は必ず吊りバンド(ハーネス)を着用してください。
4．作業前に、刈刃にひび割れ、めくれ、まがり等の異常がないか点検し異常のある刈刃は絶対に使用しないでください。
　木を切るには必ず鋸刃を使用し、草刈りにはVRクロス刃、VRともえ刃を使用してください。
5．作業中に刈刃が石などに当って衝撃を受けたときは、必ずエンジンを止めて刈刃の点検を行い、異常のある刈刃は使用しないでください。
6．給油の時は必ずエンジンを止めてください。
7．他の場所へ移動する時は必ずエンジンを止め、刈刃にカバーを付けてください。
8．安全作業のため下図の服装を参考にしてください。



A．各部の名称



B．仕　様

名称	新ダイワ刈払機	
形式	新ダイワR35F-2A	R35F-2B
伝達方式	自動遠心クラッチ・スパイラルベベルギヤ	
減速比	1,235	
刃先回転数	4,500～7,000r.p.m	
刃先回転方向	上から見て左	
本体乾燥重量	6.8kg	
外形寸法(長さ×幅×高さ)	1,755mm×545mm×490mm	
エンジン 機種名	新ダイワエンジンS35F	
エンジン 形式	空冷2サイクルガソリンエンジン	
エンジン 内径×行程	36mm×33mm	
エンジン 総排気量	33.6cc	
エンジン 最大出力	1.7PS	
エンジン 燃料タンク容量	0.9ℓ	
エンジン 使用燃料	ガソリン25：オイル1	
エンジン 気化器	フロート式	
エンジン 点火方式	電子点火	
エンジン スパークプラグ	チャンピオン．CJ－8	
エンジン 始動方式	リコイルスタータ	
エンジン 停止方式	押ボタン(防水タイプ)	
エンジン エアクリーナ方式	半湿式消音形(防水タイプ)	
標準装備	防振ブラケット付ハンドル　刃物脱落防止機構　刃物カバー　安全ガード	
標準装備	緊急離脱装置付ハーネス 過回転防止式スロットルレバー 大型カッタホルダー のこ刃(φ255)	緊急離脱装置付ハーネス 固定式スロットルレバー VRクロス刃(φ255)
オプション	スイベルロック　ゴミ詰まり防止グリル	
オプション	のこ刃(φ305) モーアユニット (小型ホルダ、B併用)	VRともえ刃(φ255) モーアユニット スタビライザ

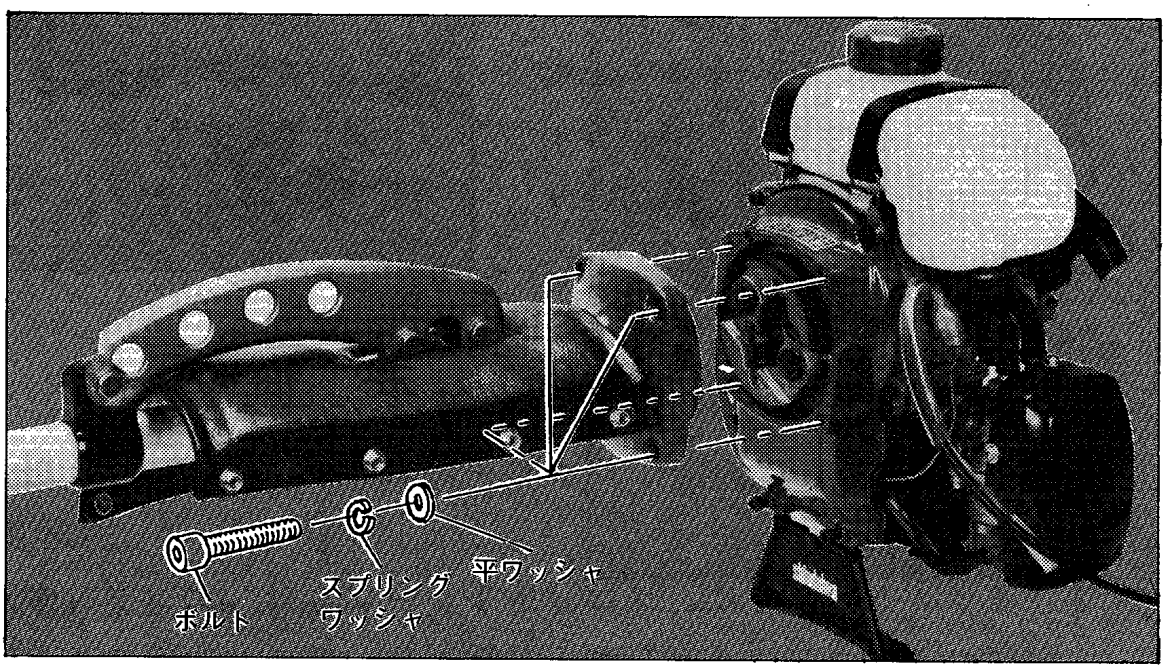
C．組立ての手順

エンジン、ハンドル、安全ガード、回転刃などは取りはずして梱包してありますので、次の要領で正しく組立ててください。

C-1．エンジンの組付け

1．燃料タンクが上、ハンガが上になるように、エンジンを取付けてください。

2．エンジンの取付けには、付属のボルト、スプリングワッシャ、ワッシャをお使いください。



3．４本のボルトは平均に確実に締めつけてください。

C-2．ハンドルの組付け

1．まず、ハンドルブラケットの下側２本のボルトをゆるめてロアキャップをはずしてください。

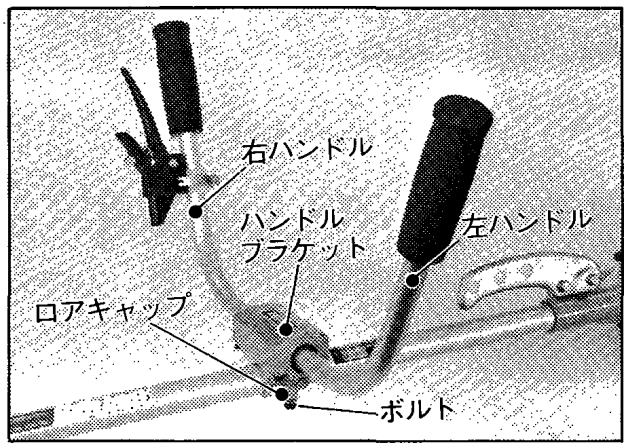
2．ハンドルはスロットルレバーが、作業状態で右側になるようにして**ハンドル取付標準位置**に組付けます。

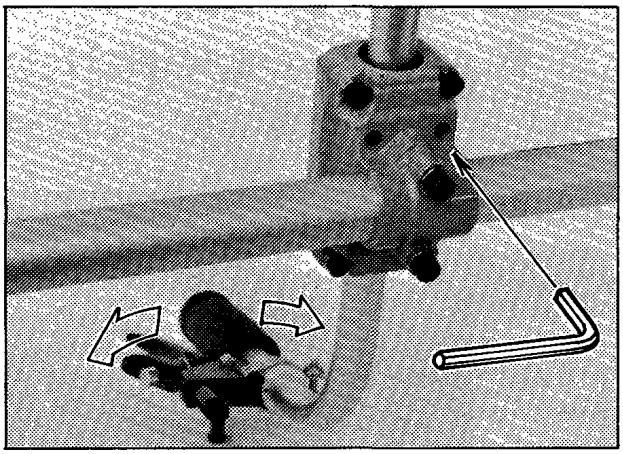
3．ロアキャップを元通りにかぶせ、ボルトを軽く締めつけてください。

ハンドル取付標準位置の付近で体格に合わせて、前後にハンドルの位置を調節します。ギヤケースに対してハンドルブラケットが水平になるようにして、ボルトを確実に締めつけてください。

5．ハンドルブラケットの下側の穴から4か所のボルトをゆるめるとハンドルを前後に傾けることができます。

6．調節した後、ハンドルを奥まで一杯押し込んで、ボルトを均等に確実に締めつけてください。

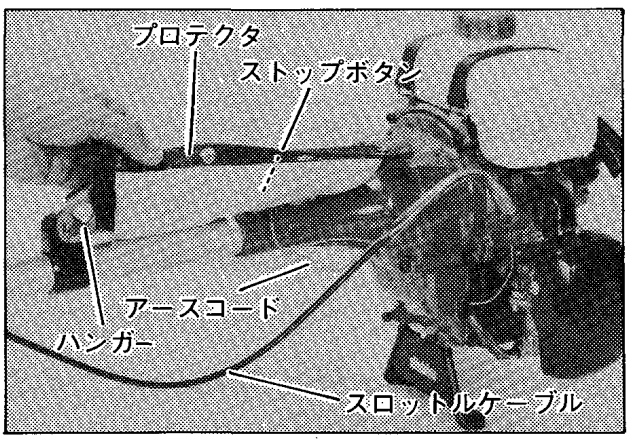


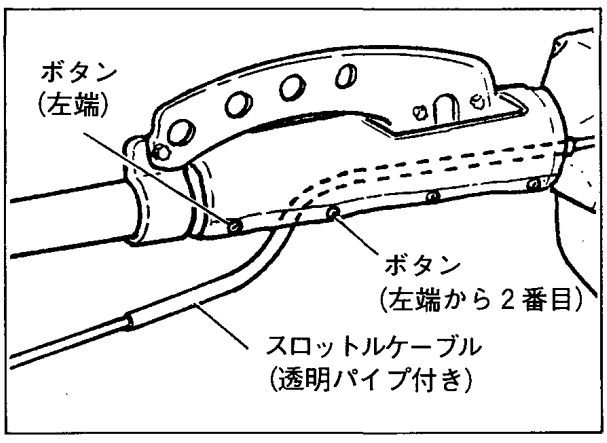


C-3. スロットルケーブルの取付け

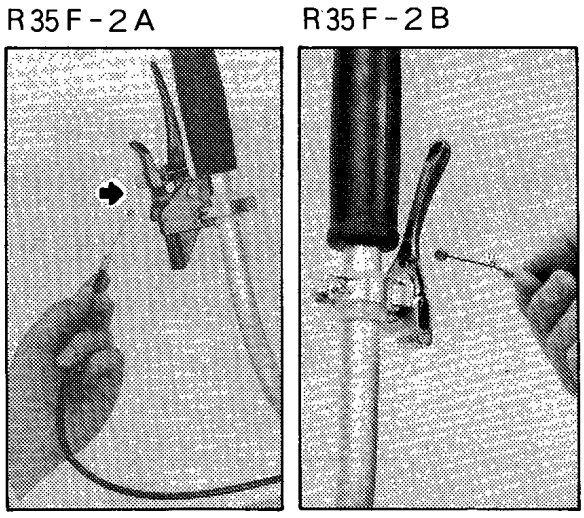
1．アースコードをストップボタンのコードに接続してください。
(写真)

2．イラストのように、スロットルケーブルは、エンジン側から、プロテクタの中を通して、左端から一番目と二番目のボタンとの間から、出して固定してください。

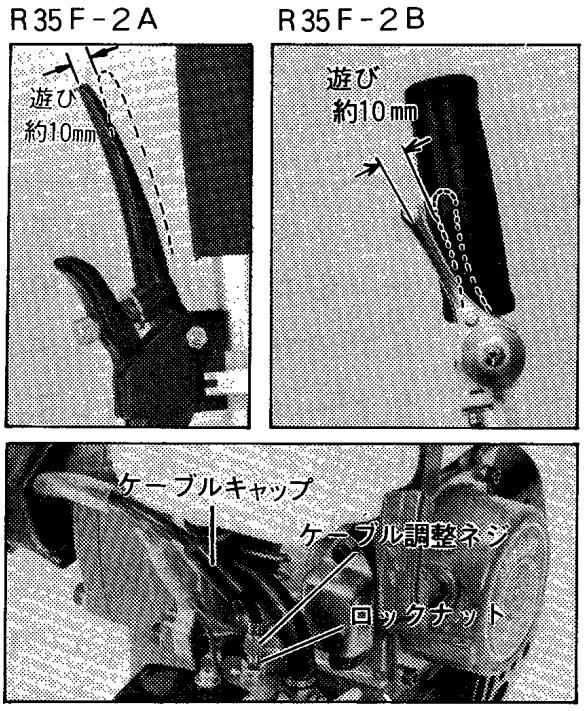




3．スロットルケーブルはハンドルの上に沿わせケーブルの先端をスロットルレバーに引っかけます。



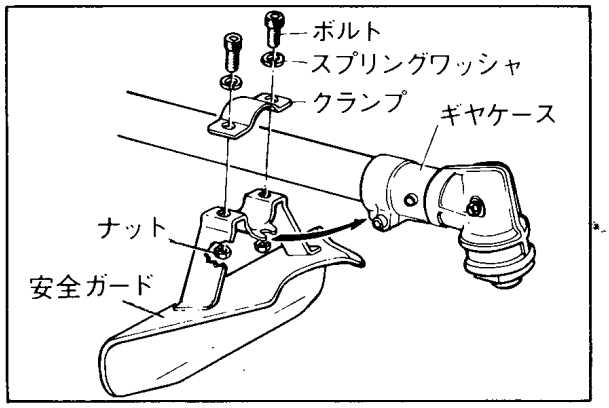
4．スロットルレバー先端の遊びが約10mmになるようにケーブル調整ネジを調整して、ロックナットで固定してください。(調整した後、ケーブルキャップを元通りケーブル調整ネジにかぶせてください。)



C-4.安全ガードの取付け

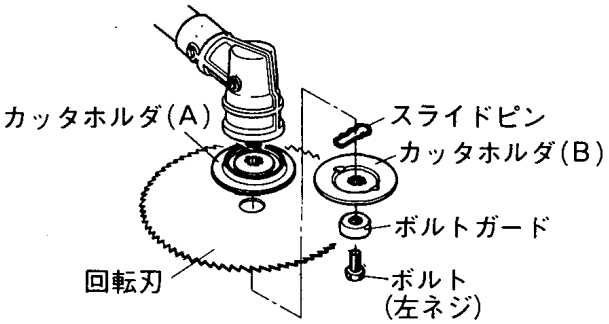
1．安全ガードが水平になるようにギヤケースの廻り止めに噛み合わせ、アウタパイプに取付けます。

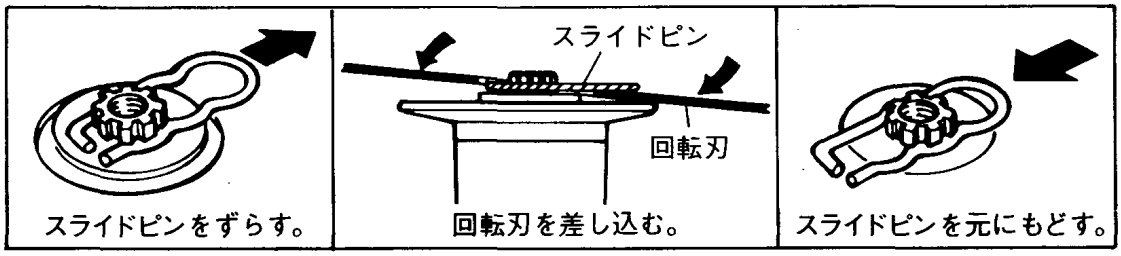
2．クランプを取付け、ボルト・ナットで確実に締めつけてください。



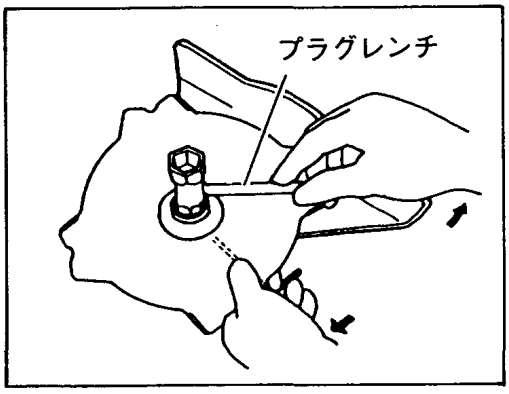
C-5.回転刃の取付け

1．回転方向を図のように合わせて、回転刃をセットします。(スライドピンを矢印の方向にずらし、回転刃を差し込む。スライドピンを元の位置にもどしてセット完了。)





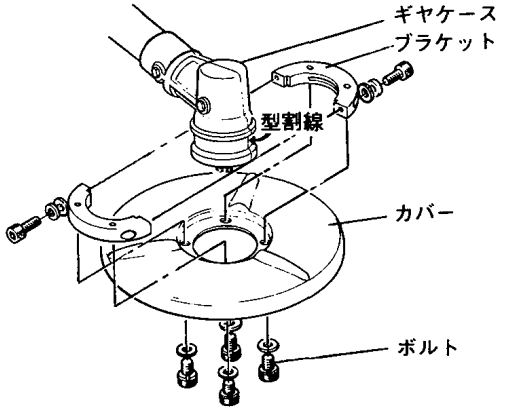
2．カッタホルダB、ボルトガード、ボルトの順にはめ、六角レンチをカッタホルダAとギヤケースの穴に通してまわり止めを行った後、ボルト（左ネジ）をプラグレンチで確実に締めつけてください。



（スライドピンが元の位置にもどっていないと、カッタホルダBが確実にはまりません。）

C-6.R35F-2Bにモーアユニットを使用する場合

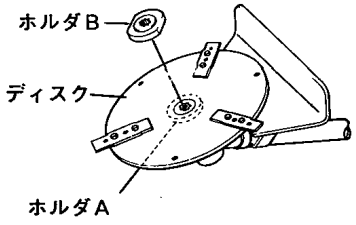
1．ギヤケースに組み付けてあるボルト（左ネジ）を抜きとり、ボルトガード、ホルダB、スライドピンをはずします。(ボルト、ボルトガード、スライドピンはモーアユニットには使用しませんので、粉失しないように保管してください。)

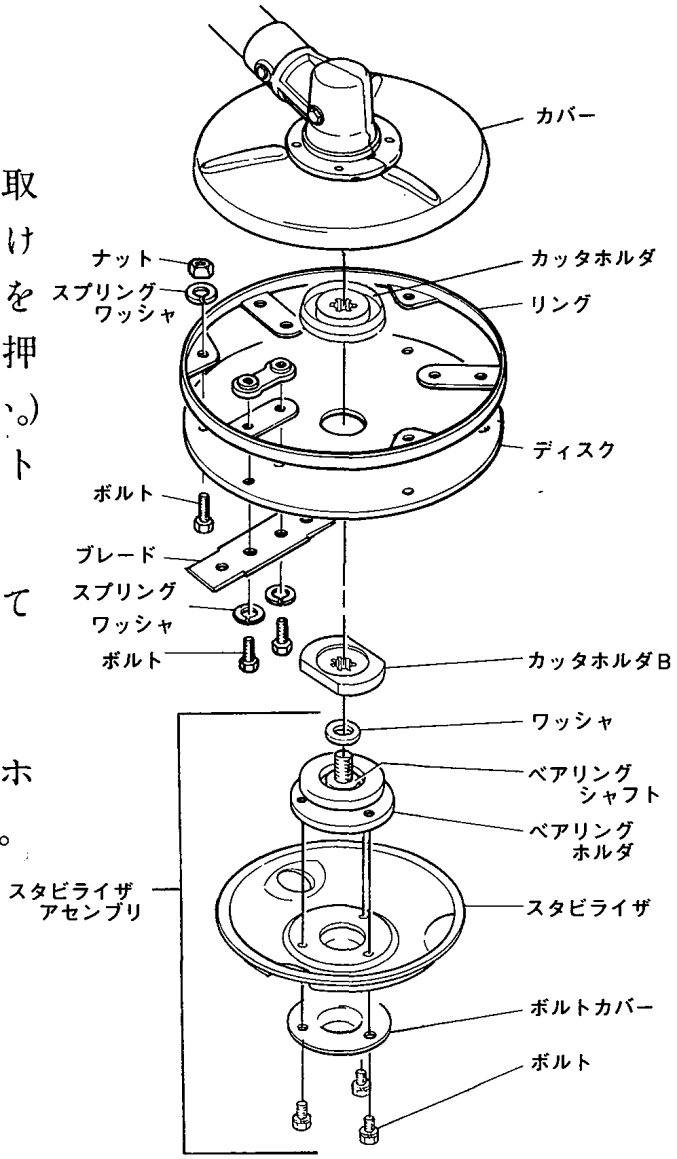


2.ホルダAもとりはずしてください。
図のようにギヤケースにブラケットを取り付け、2本のボルトを均等に締めつけてください。（ブラケットの合わせ面をギヤケースの型割線に合わせ、下側に押しつけるようにして取り付けてください。）
次にブラケットにカバーを4本のボルトで締めつけてください。

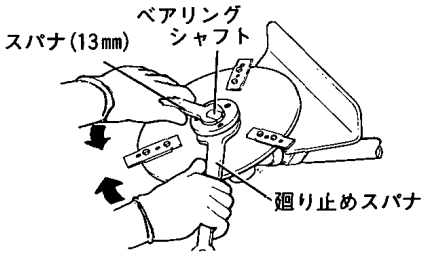
3.スタビライザの3本のボルトをゆるめて抜きとります。

4.ホルダAの上にディスクをのせ、次にホルダBをしっかりはめ込んでください。

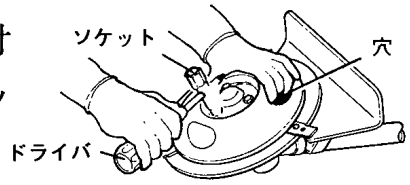




5.ワッシャ、ベアリングシャフトの順にはめ、ねじ込みます。廻り止めスパナでカッタホルダBを押さえスパナ(13㎜)で確実に締めつけてください。(左ネジです。)



6.スタビライザとボルトガードを3本のボルトで取り付けます。左手でスタビライザを押さえ、付属のソケットで確実に締めつけてください。



スタビライザアセンブリはともえ刃にも使用できます。
ブレードには刃が4か所つけてあります。切れなくなったら、裏返して新しい刃を出してください。

注）ブレードおよび、ボルト、ナットは材質・形状・寸法などが専用になっていますので、安全のため必ず純正品を使用してください。

D．エンジンの始動、停止、調整

D－１．燃料の給油(混合油)

燃料は**ガソリン25**に対して**オイル１**の割合で混合して給油してください。

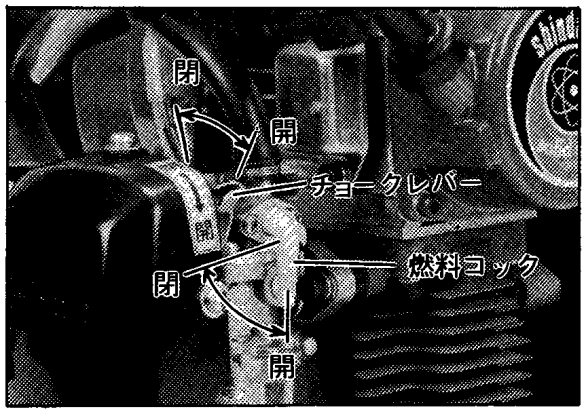
注）１．オイルは必ず２サイクル専用オイルを使用してください。
２．燃料補給や混合する組合は、火気のないところでおこなってください。
３．エンジンが始動すると、回転刃がまわります。思わぬ事故が起きぬよう必ず周囲の安全確認をしてください。

D－２．始動のしかた

１.エンジンが冷えているとき

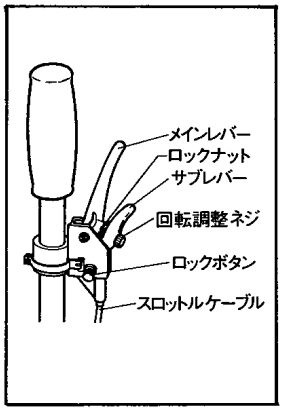
1 燃料コックを開き、しばらくおいて燃料を十分にキャブレタに送り込みます。

2 チョークレバーを閉にする。

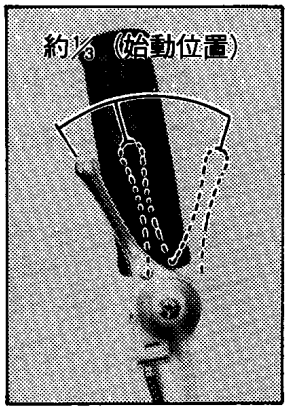


3 サブレバー(スロットルレバー) を引いて、ロックボタンを押したままレバーをはなし、始動の状態にセットする。(レバーをもう一度引くとロックははずれます。) 固定式スロットルレバーの場合（R35F－２B）は、レバーを約⅓開いて始動の状態にします。

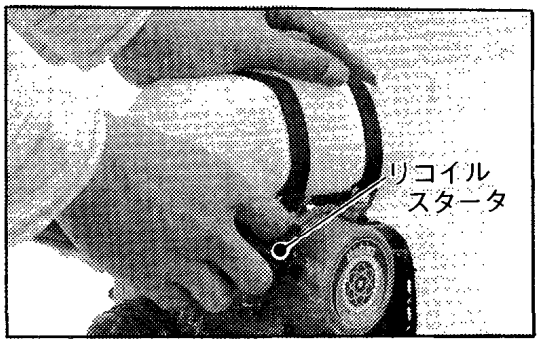
R35F－2A



R35F－2B



4 写真のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスタータを引く。ツメがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引きます。



注）始動時にスタータロープを最後まで引くとロープの寿命が短くなりますので、できるだけ最後まで引かないようにしてください。圧縮が利いて重くなった位置から勢い良く引けば容易に始動します。

5 爆発音がしエンジンが始動したら、チョークを徐々に開に戻してください。爆発音がしてもエンジンが始動しないときはチョークレバーを開に戻し再びリコイルスタータを引いて始動してください。始動したらスロットルレバーを少し引いてロックをはずし、アイドリング状態にしてください。エンジンがかかると回転刃もまわりますから注意してください。

1．エンジンが暖まっているとき

1 燃料コックを開く。

2 スロットルレバーを始動の状態にセットする。(前記 3)

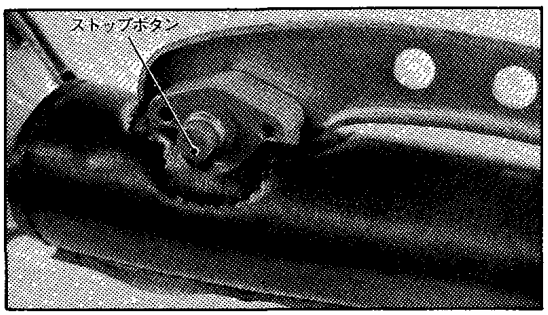
3 リコイルスタータを引く。

注）1．チョークレバーを閉にして始動するときは、爆発音がしてもチョークを閉にしたまま始動操作をくりかえすと、燃料の吸込みすぎとなります。必ずチョークレバーを開に戻し再始動してください。　(前記 5 参照)
2．始動したら２～３分低速で暖機運転してください。

D-3.停　止

1．スロットルレバーをはなして、エンジンの回転を低速に落とし、しばらくの間運転しエンジンを冷やします。

2．燃料コックを閉じ、ストッププスイッチを、エンジンが完全にとまるまで押しつづけてください。



D－4.エンジンの調整

エンジンを始動させて、2～3分低速で暖機運転をした後に調整してください。

1．アイドリングの調整

スロットルレバーをもどしたとき、安定して回転するようにアイドリングを調整してください。

アイドリング調整ねじを
- 右にまわすと→回転が早くなる
- 左にまわすと→回転が遅くなる。

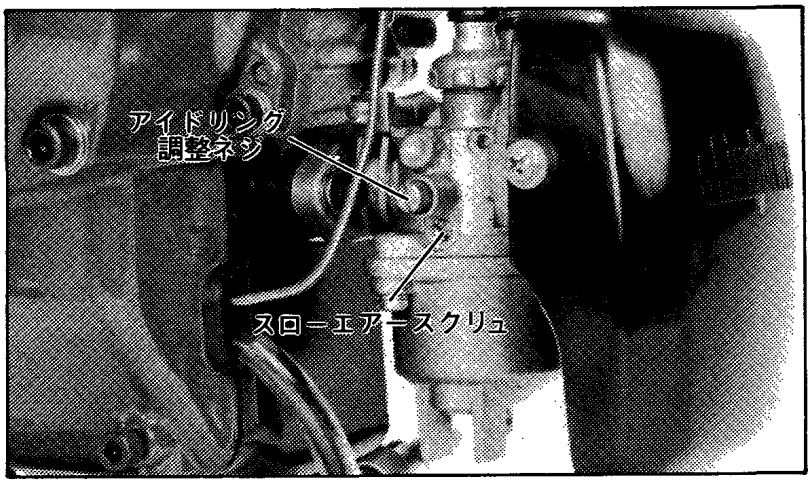
注）低速回転のとき、クラッチが切れて**回転刃の回転が止まる**ようにしてください。

2．スローの燃費調整

スローエアースクリュ 標準開度½

調整済みですので通常は動かさないでください。

調整する場合は全閉から2回戻しの範囲で、安定性と加速性の良いところにセットします。



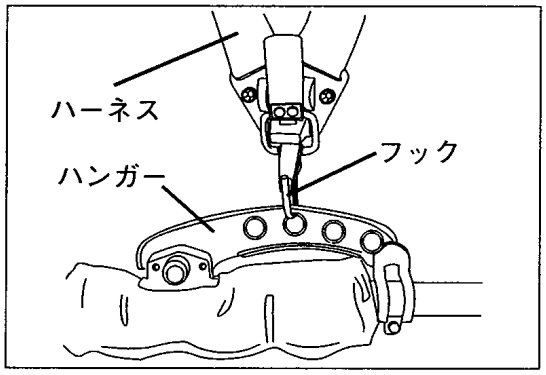
E．操作とその準備

E-1．ハーネスの掛け方

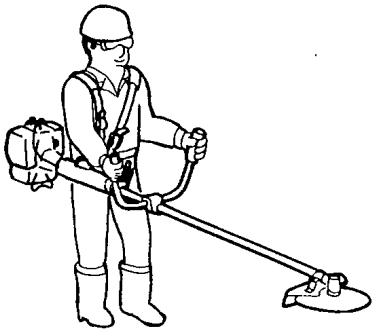
1．ハーネスを腕から通し、フックが身体の右側にくるように掛けてください。



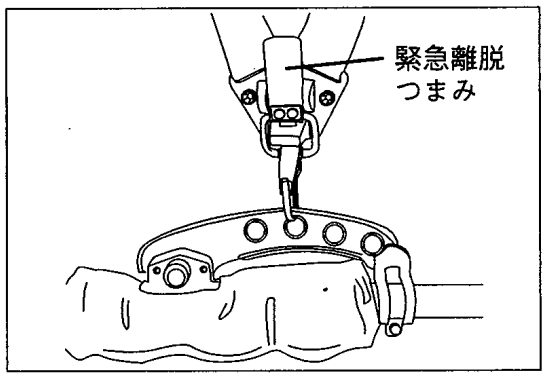
2．ハンガーの4個の穴のいずれかにハーネスのフックを通し、エンジン側とギヤケース側のバランスをとってください。



3．刈刃が地上から数センチの高さになるように、ハーネスの長さを調整してください。



4．緊急の場合、緊急離脱つまみを上方に強く引くと刈払機は身体から離れます。

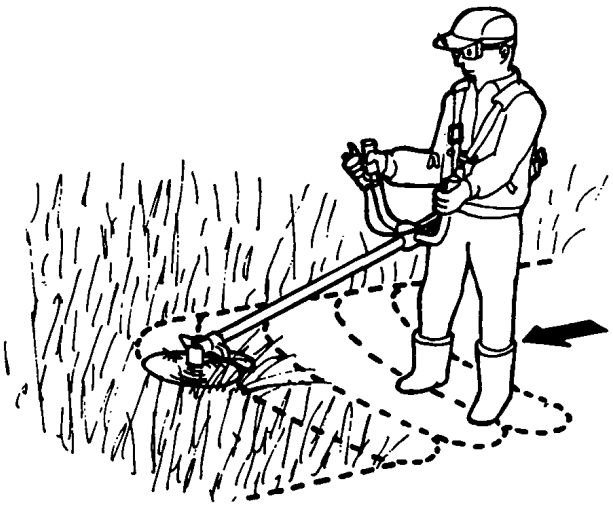


E－２．操作の方法

1．エンジンを始動させ、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に回転刃が回転をはじめます。

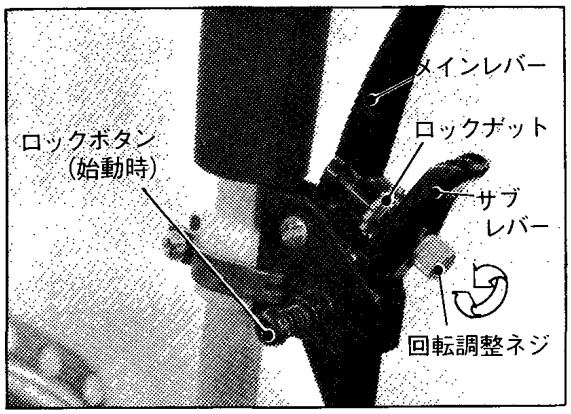
2．スロットルレバーをはなせばクラッチが切れ、エンジンはアイドリング（無負荷低速）状態になります。

3．回転刃の回転方向は左廻りですから、右側から左側に寄せるように刈ると能率的です。（刈取った草は左側に寄せられますので、広い面積を刈るときには、左側から前進すると刈取った草が次の列を刈るときに邪魔にならず、能率的に作業がすすめられます。）



スロットルレバーの調整

R35F-2Aの場合



①ロックナットをゆるめてください。

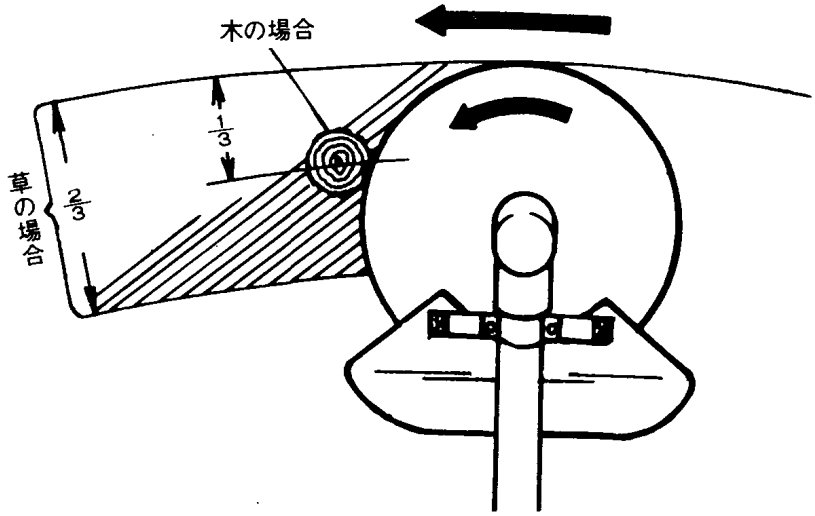
②メインレバーをいっぱい握った状態で、作業に合った回転になるように、回転調整ネジを調整してください。

回転調整ネジを
- 右にまわすと——→回転が早くなる。
- 左にまわすと——→回転が遅くなる

③調整後、ロックナットを必ず確実に締めてください。

④サブレバーを握ると更にエンジンの回転が早くなります。

4．回転刃の切れ味は、先端から$^{1}/_{3}$あたりが最高です。のこ刃で木を切る場合などは$^{1}/_{3}$の位置を使い、草などを刈る場合は先端から$^{2}/_{3}$の範囲を使うようにすれば刈り残しがありません。



5．草や木を切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引きますと、エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンや刈払機本体のシャフトを破損させる原因となりますので注意してください。

6．クラッチがつながって回転刃が回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動を感じることがあります。この状態で作業をしますと、クラッチの摩耗を早めます。又、草なども巻きつきやすいので、もう少し回転を上げて使用してください。
（のこ刃で木を切るときには、強く当てないで徐々に切込んでください。）

注）1．作業中は半径10m以内に他の人を近づけないよう注意してください。
2．作業中の飛散物から作業者を守るため、必ず安全ガードを取付けてください。
3．運搬のときは必ず回転刃にカバーをかけてください。

E-3. スイベルロックの使用方法

このスイベルロックをご使用になる場合は、下図のようにセットしてご使用ください。

〔取付け方法〕

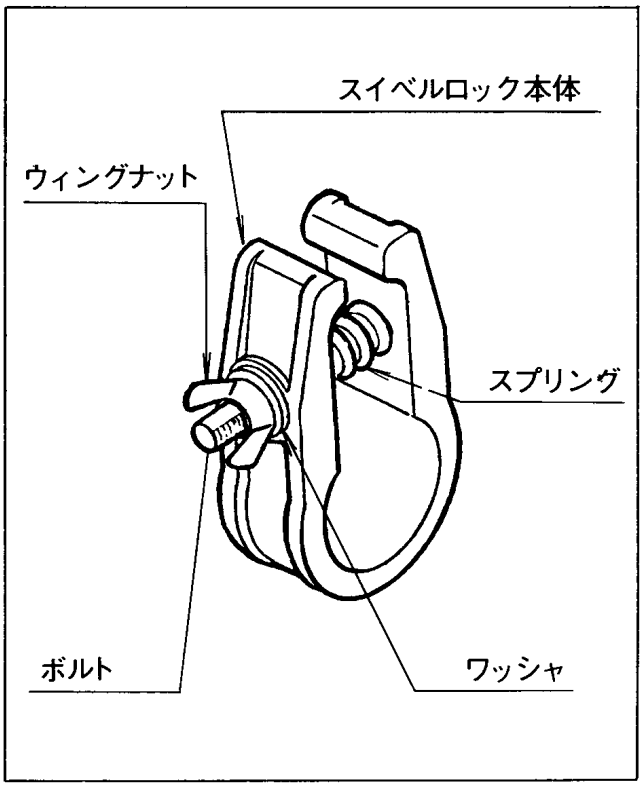
1．本機からプロテクタをはずします。

2．スイベルロックをアウタパイプに強くはめ込みます。

3．ハンガーをはさんだらスプリングをスイベルロックの内側に押し込みボルトを通します。

4．ワッシャを付け、ウィングナットを締めれば取付け完了です。

5．プロテクタを元通りに取り付けます。

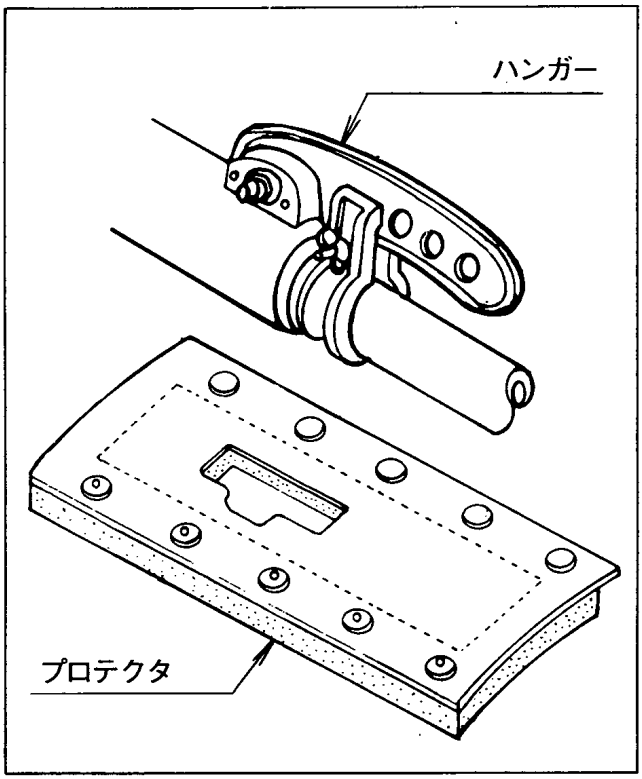


〔使用方法〕

1．スイベルを固定したいときは、ウィングナットを２～３回転締付けてください。

2．ロックを解除するときは、ウィングナットを２～３回転戻します。

3．作業条件によりハンガーを反対側に取付けて使う場合は、ボルトを反対側からさしかえてください。



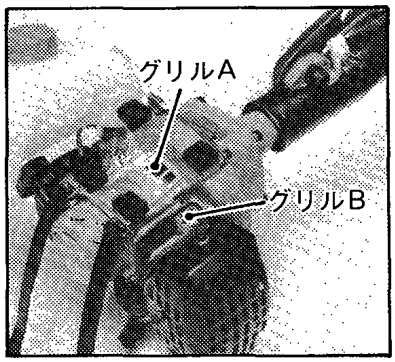
スイベルロック Assy はオプション品（別売品）です。

F．手入れと調整

F-1．日常の手入れ

1．刈払機全体の草やホコリを取り除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナ部分の付着物に気をつけましょう。

2．グリルA、B使用の場合（オプション品〈別売品〉）は、燃料タンクまたはマフラーを取りはずしグリル周辺につまった草やゴミを除去してください。（ゴミが多量につまったままで使用を続けると、エンジン焼付など、トラブルの原因となります。）

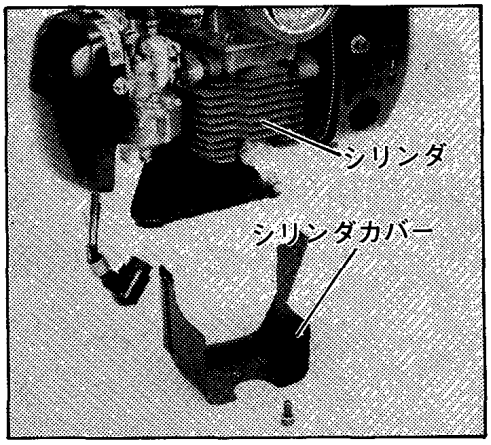


3．各締付部のゆるみ、あるいは部品の脱落がないかをよく調べてください。（特に回転刃のボルトは、作業前には必ず締付けて確認してください。）

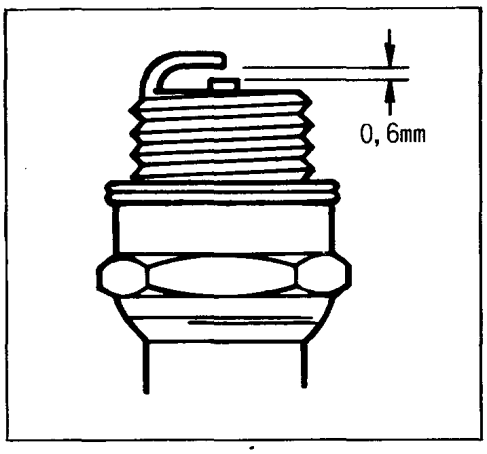
4．燃料やグリースのもれがないか点検してください。

F-2．50時間毎の手入れ

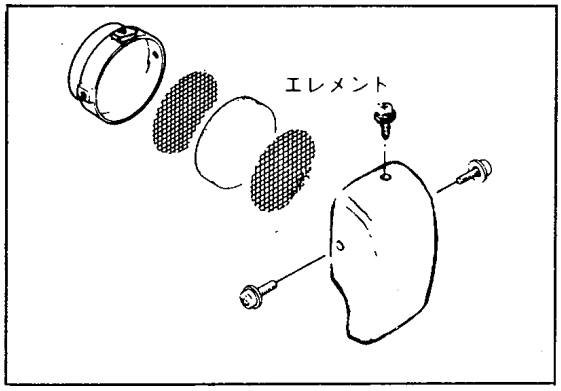
1．シリンダカバーをはずし、シリンダのフィンについている草やゴミを取り除いてください。組付けるときは、クランクケースにキチンとはめてください。



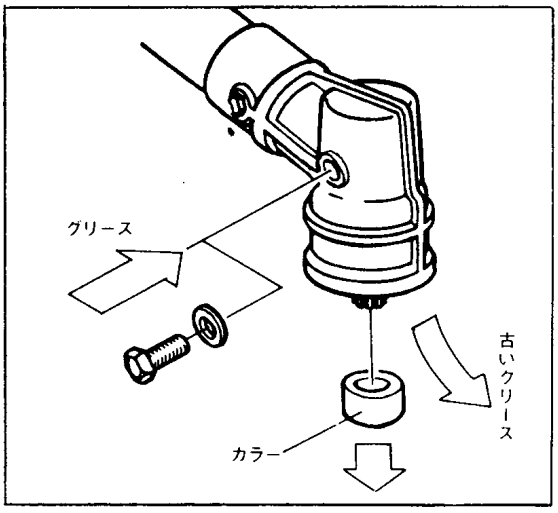
2．スパークプラグをはずし、汚れを落として、すきまの調整をしてください。すきまは0.6mm（ハガキ３枚の厚さ）が適当です。スパークプラグを交換するときは、当社指定の純正品をお使いください。



3．キャブレタからエアクリーナエレメントをはずして、混合燃料でよく洗い、絞ってから取付けてください。



4．ギヤケースの中にグリースを補給してください。ギヤシャフトのカラーを抜いてグリースを補給すると古いグリースは押し出されます。（グリースはギヤケース用純正グリースを必ず使用してください。）



G．長期保管

長時間使用せずに保管する場合は、次の要領で保管してください。

1．各部は十分に清掃し、金属部分には薄くオイルを塗ってサビを防いでください。
2．燃料タンクとキャブレタの燃料を全部排出してください。
3．スパークプラグの穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込みオイルがゆきわたるように2～3回リコイルスタータを引いて圧縮のあるところで止めてロープをもどしてください。
4．損傷箇所がある場合は、修理してから保管しましょう。
5．湿気のないところ、ゴミやホコリの付かない所に格納してください。

H．安全作業のおねがい

安全な作業をしていただくために、必ず次の注意をお守りください。

H-１.服装

1．長そでの上着、長ズボンを着用してください。（すそのヒラヒラした上着は危険です。）

2．ツバのある帽子、または傾斜地ではヘルメットをかぶってください。

3．作業中は防じんメガネをかけてください。

4．すべり止めのついた地下たびか、安全靴をはいてください。

H-２.暑熱、寒冷のときには、長時間の作業は避けてください。また雨の日は、滑りやすいので避けてください。

H-３.火気厳禁

1．ガソリンを使用しますので、刈払機や燃料のそばでタバコやたき火はやめてください。

2．燃料補給時には、必ずエンジンを停止してください。
こぼれた燃料は拭き取ってください。

3．始動は燃料のある場所や、燃料補給の場所から離れて行ってください。

H-４.作業前の点検

1．運転前に回転刃の締付ネジを確実に締めつけてください。

2．運転前に回転刃の「欠け」、「ひび割れ」、「まがり」などの異常がないか点検してください。異常がある場合には絶対に使用しないでください。

3．回転刃を回転させて、異常な振動がないか調べてください。(異常な振動がある場合は、回転刃がカッタホルダにはまっていないことがあります。

4．回転刃締付ボルトがすり減ってスパナがかけにくいような場合には、必ず新品と交換してください。

H-5.作業中の注意

1．作業中は10m 以内に他の人を近づけないよう注意してください。数人で作業するときも、作業者間の間隔をとってください。

2．石の多いところ、電線、バラ線などのあるところは、刃先を当てないように注意して作業してください。もし、あやまって石などに刃先が当った場合は、必ずエンジンを停止して、刃先に異常がないかを確認してください。

3．他の場所へ移動するときは必ずエンジンを止めてください。

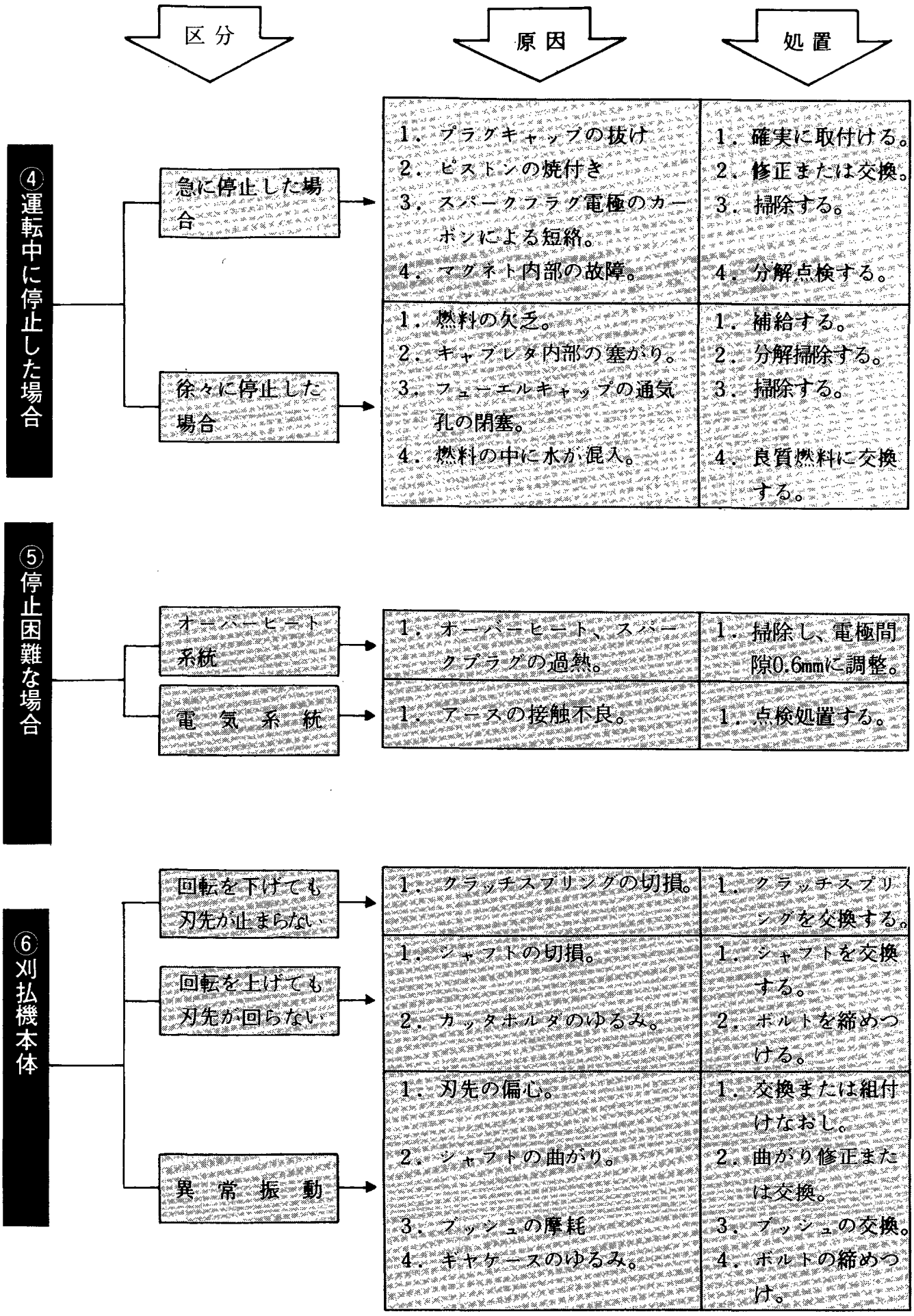
4．安全ガードを取りはずして作業することは、絶対にやめてください。

5．回転刃脱落防止のスライドピンを取りはずさないでください。常に正常な状態で使用してください。

Ⅰ．故障の診断と処置

区分		原因	処置
①エンジンが始動しない場合	スパークプラグに火が飛ばない	スイッチ	1．スイッチが故障している。	1．良品に交換する。
		スパークプラグ	1．電極がぬれている。 2．電極にカーボンがたまっている。 3．碍子のキレツ等による絶縁不良。 4．電極間隙の過小または過大。 5．電極の焼損。	1．乾燥させる。 2．掃除する。 3．良品に交換する。 4．0.6mmに調整。 5．良品に交換する。
		マグネット	1．コイルが断線している。 2．コイルの絶縁不良。 3．コード被覆の切損。 4．ユニットが断線している。	1．良品に交換する。 2．良品に交換する。 3．交換または補修。 4．良品に交換する。
	スパークプラグに火が飛ぶ	圧縮も良好で燃料もくる	1．燃料の吸い過ぎ。 2．燃料の濃過ぎ。 3．不良燃料の使用。	1．リコイルスタータにて外部に放出する。 2．キャブレタを調整する。 3．良質燃料と文換する。
		燃料はくるが圧縮不良	1．シリンダ・ピストン・ピストントンリングの摩耗。 2．スパークプラグがゆるんでいる。	1．交換する。 2．締めつける。
		キャブレタに燃料がこない	1．燃料タンクに燃料がない。 2．燃料コックが閉じている。 3．燃料コックのフイルタがつまっている。	1．補給する。 2．開く。 3．掃除または交換する。

区分		原因	処置
②力がない場合	圧縮も良く失火もしない	1．エアクリーナ閉塞。	1．掃除する。
		2．マフラのカーボンによる閉塞。	2．掃除する。
		3．燃料通路のつまり。	3．掃除する。
		4．ピストンが焼付き気味。	4．強い当り部分を修正する。
		5．燃料の中に水が混入している。	5．良質燃料と交換する。
	過熱する	1．燃料が薄い。	1．キャブレタを調整する。
		2．混合油の不良。	2．2サイクル専用オイルに交換。
		3．カーボンの堆積。	3．掃除する。
		4．ファンカバー、シリンダフインにごみがつまる。	4．掃除する。
		5．無理な運転。	5．正しい使い方をする。
	エンジンの不快音	1．シリンダのオーバーヒート	1．キャブレタ調整、シリンダフィンのゴミ掃除。
		2．使用燃料の不良。	2．良質燃料に交換する。
		3．燃焼室にカーボンがたまっている。	3．掃除する。
③加速が悪い場合	燃料通路閉塞	1．フイルタのつまり。	1．掃除する。
		2．燃料の薄過ぎ。	2．キャブレタ調整する（濃くする）
		3．エアクリーナのつまり。	3．掃除する。
		4．アイドリングの低過ぎ。	4．回転数を高める。
	空気を吸う	1．キャブレタのゆるみ。	1．締めつける。
		2．インレットパイプのゆるみ。	2．締めつける。


区分
原因
処置
④運転中に停止した場合
急に停止した場合
1．プラグキャップの抜け
2．ピストンの焼付き
3．スパークプラグ電極のカーボンによる短絡。
4．マグネト内部の故障。
1．確実に取付ける。
2．修正または交換。
3．掃除する。
4．分解点検する。
徐々に停止した場合
1．燃料の欠乏。
2．キャブレタ内部の塞がり。
3．フューエルキャップの通気孔の閉塞。
4．燃料の中に水が混入。
1．補給する。
2．分解掃除する。
3．掃除する。
4．良質燃料に交換する。
⑤停止困難な場合
オーバーヒート系統
1．オーバーヒート、スパークプラグの過熱。
1．掃除し、電極間隙0.6mmに調整。
電気系統
1．アースの接触不良。
1．点検処置する。
⑥刈払機本体
回転を下げても刃先が止まらない
1．クラッチスプリングの切損。
1．クラッチスプリングを交換する。
回転を上げても刃先が回らない
1．シャフトの切損。
2．カッタホルダのゆるみ。
1．シャフトを交換する。
2．ボルトを締めつける。
異常振動
1．刃先の偏心。
2．シャフトの曲がり。
3．ブッシュの摩耗
4．ギヤケースのゆるみ。
1．交換または組付けなおし。
2．曲がり修正または交換。
3．ブッシュの交換。
4．ボルトの締めつけ。

新ダイワ工業株式会社

本社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
静岡営業所	〒422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	☎ 054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉1628-4	☎ 0299-59-1005
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
新潟営業所	〒950-0892	新潟市東区寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松営業所	〒430-0852	静岡県浜松市中区領家3丁目11-1	☎ 053-465-1140
津営業所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷226-6 黒田コーポ	☎ 073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	☎ 0792-33-6838
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	☎ 089-922-8886
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早営業所	〒854-0066	長崎県諫早市久山町1785-5	☎ 0957-49-8857
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本営業所	〒861-8045	熊本市小山3丁目7-26	☎ 096-388-0096
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801
宮崎営業所	〒880-2112	宮崎市小松2399-6	☎ 0985-62-3612

080416

22014-93114 ©